

# ニューサウスウェールズ州の初等教育における人間社会・環境シラバス 2006年版の分析

－四つの社会系基礎概念による内容の階層－

吉田 剛\*・管野 友佳\*\*

Analysis of Human Society and Environmental Syllabus 2006 Edition in Elementary Education in  
New South Wales : Hierarchy of contents based on four fundamental concepts of society

YOSHIDA Tsuyoshi and KANNO Yuka

## Abstract

In this research, we analyzed and discussed the content composition of four fundamental concepts of society in Human Society and Environment Syllabus 2006 edition (HSIE 2006 edition) in New South Wales, Australian Commonwealth. And it was aimed to obtain suggestions on the content composition of the new elementary Social Studies in Japan, based on competency.

As a main result, in the description of the HSIE 2006 learning outcome, it was stated from four strands, that is, four fundamental concepts of society which is a framework of knowledge and understanding. In the description of the curriculum scope, it is thought that contents are composed of four levels of hierarchy (I : fundamental concepts, II : lower concept, III : lowest concept, IV : meaning of phenomenon which becomes contents of learning). Because such features become the framework of the entire curriculum, the HSIE 2006 edition was considered as a curriculum of content base. As suggestions, we should discuss the hierarchy of contents and the system of how to accumulate it, and theoretically should discuss the way of mutual complementary relations of engaging as a function of fundamental concepts of society in contents and method of learning.

**Key words :** Australian Commonwealth (オーストラリア連邦)

Fundamental Concepts of Society (社会系基礎概念)

The New Elementary Social Studies (新しい小学校社会科)

Content base (コンテンツ・ベース)

Competency base (コンピテンシー・ベース)

## I はじめに

コンピテンシー重視の新しい小中学校学習指導要領解説社会編の社会科・地理歴史科・公民科の目標には、「公民としての資質・能力」が示され、小・中学校社会科には、その基礎が求められた(文部科学省、

2017)。その具体は、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱から整理され、「社会的な見方・考え方」を働かせた学びを通して、育成される。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、小・中学校社会科の内容の枠組みや対象の整理、「社会的な見方や

---

\* 宮城教育大学社会科教育講座

\*\* 仙台市立台原小学校

考え方」と概念等に関する知識との関係が示された。小学校社会科においてみると、従来の総合的に社会の本質をみようとする総合社会科とはやや異なり、内容を枠組み(三分野)から捉えることが明示された。

現代は、急速な社会変容と膨大な情報流通、多様な価値観への対応に迫られている。従来の総合社会科のように、複数の分野を総合的に扱い、的確に社会の本質をみようとすることは、より困難になっている。それに迫ったとしても限定的、一時的な本質の理解に止まる。限られた時間内では、学習成果の活用を見通すマネジメントに困難な状況を生み出し、結果的に児童生徒にとっても難解な学習あるいは浅く広い学習に陥らせてしまう。ここに新しい小学校社会科の内容の枠組み(三分野)による意義の一つが見いだせる。学習の深さや学習段階にもよるが、一つの分野をよりどころに、また切り口にすることによって、他分野へ相互補完的に関連付けながら、社会の本質に迫ろうとする。このような新しい小学校社会科の内容は、中学校の系統に繋がる「地理的環境と人々の生活」(地理的な内容)、「歴史と人々の生活」(歴史的な内容)、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」(社会的な内容)の三つの枠組みから位置付けられた。その詳細は、次のとおりである。

#### ○地理的な内容：

第3学年(1)「身近な地域や市区町村の様子」、第4学年(1)「都道府県の様子」・(5)「県内の特色ある地域の様子」、第5学年(1)「我が国の国土の様子と国民生活」・(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり」。

#### ○歴史的な内容：

第3学年(4)「市の様子の移り変わり」、第4学年(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」、第6学年(2)「我が国の歴史上の主な事象」。

#### ○社会的な内容：

第3学年(2)「地域に見られる生産や販売の仕事」、(3)「地域の安全を守る働き」、第4学年(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」、(3)「自然災害から人々を守る活動」、第5学年(2)「我が国の農業や水産業における食料生産」、(3)「我が国の工業生産」、(4)

「我が国の産業と情報との関わり」、(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり」、第6学年(1)「我が国の政治の働き」、(3)「グローバル化する世界と日本の役割」。

このような新しい小学校社会科の内容には、吉田・管野(2016)による「学習の内容的側面」に機能する社会系基礎概念の捉え方<sup>1)</sup>からすると、三分野の社会系基礎概念を基にした知識・理解が意図されている。つまり、「地理的環境と人々の生活」の内容構成の基には地理的概念があり、それに基づく学習内容の知識・理解が意図されている。同様に、「歴史と人々の生活」の内容構成の基には歴史的概念があり、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の内容構成の基には社会的概念がある。このように、社会系基礎概念を基にした知識・理解として考えると、例えば、オーストラリア連邦のニューサウスウェールズ州の初等教育段階における人間社会・環境シラバス2006年版(Human Society & Its Environment K-6 Syllabus)(以後、HSIE2006年版)が参考になる(BSTES, 2006)。

HSIE2006年版は、“Investigating Social Studies (K-6) Curriculum Policy Statement (1982)”と“General Religious and Moral Education Curriculum for Primary School (1964)”に代わるものとして説明されている。それは、初等教育となる就学前から第6学年(K-6)までの四つの段階(ES1・S1・S2・S3)の系統と、ストランド(Strands)とされる変化と連続(Change and Continuity)、文化(Cultures)、環境(Environments)、社会的なシステムと構造(Social Systems and Structures)の四つの社会系基礎概念の基に、歴史的な内容、文化的な内容、地理的な内容、社会的な内容が構成されている。

HSIE2006年版に関する先行研究は、皆無に等しい。ただし吉田・管野(2016)は、ストランドの一つである環境を取り上げ、その下位に「場所のパターンと位置」と「場所の関係性」が示され、さらに下位に「位置・場所・方向」、「場所と特徴」、「環境への配慮」、「人々と環境間関係性」が関係付けられている点を説明している。この点は、歴史、文化、社会のストランドにも同様な特徴がみられることが想定できるため、小学校社会科の内容の枠組みを掘り下げて考える上で重要といえる。

そこで本稿では、HSIE2006年版における四つの社

社会系基礎概念による内容構成に関する基礎的な分析・考察を行い、我が国の新しい小学校社会科の内容構成に関する示唆を得ることを目的とする。

方法・手順は、次の三つをとる。

- ① HSIE2006年版の「総則」・「ねらいと目的」・「人間社会・環境の学習の概観」の項目における記述からその概要を把握し、カリキュラム全体の基礎的な考察を行う。
- ② 続く「学習成果」・「学習内容の範囲とシーケンス」の項目における主要な記述から、四つの社会系基礎概念による内容に関する分析・考察を行う。
- ③ ①②の結果より、我が国の新しい小学校社会科の内容への示唆について言及する。

## II HSIE2006年版の概要

### 1 「総則」項目 (BSTES, 2006, p.7)

「総則」項目は、次の枠内の記述(筆者翻訳文)によって説明されている。そして各段落の語尾①～⑥は、筆者が概ね解釈したラベルである。

人間社会・環境による未来への幸福は互いの必要に見合う努力をしながら、互いの、文化的・社会的・自然的環境と人々の相互作用の質による。(① HSIE の背景)

人間社会・環境 K-6は変化と連続性、文化、環境、社会のシステムと構造についての理解の習得のために児童に基礎的な知識を提供する。児童は互いに影響し合う人々と環境を学ぶ機会を持つ。この知識の基礎はオーストラリアと世界の歴史と地理の学習のため、社会的・文化的・法的な学習のため、環境的・経済的学習のため、シティズンシップ教育のための土台を提供する。(② HSIE の内容)

このシラバスで選定された内容は K-10まで続く人間社会・環境の一部となる。K-6シラバスには連邦国家になるまでのオーストラリアの歴史上の出来事や人々に焦点が当てられている。つまり第7から第10学年で学習する現在までの人々・出来事・結果の学習の基礎を提供する。(③ HSIE の系統)

この鍵となる学習領域は児童に挑戦的な問いを求め、興味を抱かせ、生涯学習への愛着を發展させるための機会を与える。それは可能な限りどこでも探究学習スキルを發展させることや実際の人々、場所、問題に関わる児童にとって意味のある経験をもたらすことに焦点を当てる。それは人間社会と環境による刺激と多様性と同様に、起源、發展、結果、未来の可能性を伝える手段ともなる。情報と価値の分析を通して児童は現在または未来に影響をもたらす社会的・経済的・宗教的・市民的そして環境的問題についての責任のある意思決定をすることができ。(④ HSIE による方法)

人間社会・環境の学習は児童が他者を重視し彼らの属する社会の本質を理解し評価することを手助けする。学習は女性と男性、アボリジナルとトレス諸島の島民、様々な文化的・社会経済的な集団、異なる宗教や信念を持つ人々、不自由な人々の見方を含む。(⑤ HSIE による多様性)

人間社会・環境の学習成果として児童は個人、地域社会、国家、地球的なアイデンティティの感覺を發展させ、社会と環境の質の維持や改善における責任のある市民としての素養を身に付けるための知識、技能、価値・態度を發展させることができる。(⑥ HSIE による帰属性と市民性)

人間社会・環境科 K-6の学習は人間社会・環境と言語の二つの鍵となる学習領域の基礎を提供する。

解釈したラベルより、①では理念、②③④では教科構造の柱となる内容・系統・方法が示されている。⑤⑥では、価値・態度に関わる多様性・帰属性・市民性が求められ、我が国の小学校社会科の目標となる公民的資質の育成に通じる。社会系基礎概念に関する記述をみると、②の内容で、変化と連続性、文化、環境、社会のシステムと構造の四つが知識の習得に関わる文脈の中で示されている。この点は、前述の我が国の新しい小学校社会科の内容の枠組み(三分野)に相当する。

### 2 「ねらい」・「目的」項目 (BOSTES, 2006, p.8)

「ねらい」項目は、「○個人、地域社会、国家、グローバルなアイデンティティの感覺を高める、○社会と環境の質の維持や向上に効果的に参加することができる」の価値・態度に関する記述によって示されている。「目的」項目は、知識・理解、スキル、価値・態度から示され、次の枠内の記述(筆者翻訳文)によって説明されている。

#### 知識・理解

- 変化と連続を学ぶことによって児童は現在や未来にどのような影響を与えるかといった文化的遺産や過去の歴史的な知識・理解を發展させるべきである。
- 文化を学ぶことによって児童はオーストラリアや他の場所の文化や多様性・共通性やそれらがどのように人々のアイデンティティと行動様式に影響を与えるかについての知識・理解を發展させるべきである。
- 環境を学ぶことによって児童は場所や人々がどのように環境と関わり合い、生態系の持続性を支える意思決定をするのかについての知識・理解を發展させるべきである。
- 社会的なシステムと構造を学ぶことによって児童は社会的な集団・システム・構造における参加する役割・権利・

責任について理解するために、社会的な集団や経済的・政治的・法的システムについての知識・理解を発達させるべきである。

#### スキル

情報の獲得、探究過程の利用、社会的・市民的参加によるスキルを発達させることによって児童は急速に変化する多様な社会で活動的・積極的で教養のある市民としての役割を担えるようになるべきである。

#### 価値・態度

価値・態度と同様に、他の問題や出来事も確認・明確化・分析・評価することによって、児童は人々、文化、宗教、社会、環境、学習に対する教養や責任感のある態度を発達させるべきである。これは異文化理解と持続可能な環境における民主的で社会的に公正な社会の発達に貢献することを可能にする。

知識・理解では、変化・連続、文化、環境、社会的なシステムと構造の四つのストランドから説明され、スキルでは、情報の獲得、探究過程、社会的・市民的参加の三つ、いわば情報スキル、探究スキル、社会性スキルから市民性が求められている。価値・態度では、事実なども含めて知的にみることによって、教養や責任を伴う社会的な市民性が求められている。

### 3 「人間社会・環境の学習の概観」項目 (BOSTES, 2006, pp.9-14)

○知識・理解(変化と連続、文化、環境、社会的なシステムと構造)、○スキル(情報の獲得、探究過程の利用、社会的・市民的参加)、○価値・態度(社会的判断、異文化理解、生態系の持続可能性、民主的な過程、信念と道徳的な慣例)、の三つは、相互関連する図式によって示されている。その三者の図式の中に、アボリジナル、シティズンシップ、環境性、ジェンダー、グローバル、多文化性、職業などのオーストラリア連邦にとって重要な観点が位置付けられている。この図式は、次の枠内の記述(筆者翻訳文)によって、その概観が説明されている。枠内の各段落の語尾①～⑤は、筆者が概ね解釈したラベルである。

HSIEは歴史学、地理学、経済学、人類学、考古学、政治学、環境学習、アボリジナル学習、宗教学習、社会学のような学問分野を引き締める。このシラバスの内容は若い子供たちの歴史的・地理的な思考や市民参加・市民的資質の発達に関する最近の研究を含む、多くの源から示されている。その内容は国家的・国際的な見方だけでなく理論的な見方も用いて現在と過去のクラスにおける典型的な実践に基づき満たされている。(① HSIEの情

#### 報源)

このシラバスの内容に組み込まれている知識・理解、スキル、価値・態度は人間社会・環境を学習するために極めて重要である。自身の属する社会や環境を学習することは児童に文化的な多様性を受け入れ、価値付けさせ、環境を価値付けて保全することを奨励する。それは児童に共通の歴史の概念を発達させ反映させることを奨励する。それはまた過去の理解と興味も奨励する。(② HSIEの柱)

このシラバスの学習経験を通して児童は民主主義の発達や地方・州・連邦政府の連合の構造や過程を含む市民としての知識を獲得する。児童は場所、空間、パターン、環境、それらの間に起きている相互関係と相互作用について学ぶ。児童は文化遺産について学ぶ。それは児童の住む地域にある文化遺産や人々によく知られている文化遺産、オーストラリアと世界の観点からの文化遺産である。(③ HSIEの知識・理解)

児童は一次・二次情報源の解釈だけでなく地図や地図帳地球儀のような地理ツールの活用を通じて人間社会・環境について学ぶ。児童は観察、情報レポート、論理立て、説明、議論、論評のような、話したり、文章を書いたりすることを通して知ったことを伝達する。児童は知識への議論、計画、応用の機会を持つ。児童は自分たちの生活、社会、文化、環境の文脈だけでなく、時間や文化遺産の文脈も同様に学習することも考慮する。人間社会・環境を学習することはまた児童に自身の意見、価値、視点を発達させるために、異なる意見・価値・視点を持つ人々の権利を理解し尊重するためのスコープを提供する。人間社会・環境は児童に情報の獲得、探究過程の利用、社会的・市民的生活への参加を学ぶための機会を与える。(④ HSIEのスキル)

児童は過去、現在、未来を考慮し、年代的に配列しどのようになぜ出来事や行動が引き起こされたのか考えるための機会を持つ。児童は他の時期から状況を調査するために人々や集団における共感的理解を発達させ行動が引き起こされた理由を考える機会を持つ。児童は地図化や方位への従属、関係性とパターンを考えるための位置スキルを使うことを学ぶ。児童はまた計画、識別、収集、分析、組織化、総合、伝達を含むスキルを使って探究することを学ぶ。学んだことを応用しふり返りながら。児童はある程度のテクノロジーを含み参考文献や調査スキルの利用を通して人間社会・環境を学習することを学ぶ。児童は問題解決と意思決定スキルを使う。児童は集団内で責任を持って協力して参加することを学びまた責任のある社会的・市民行動をいつどのように取るかも学ぶ。(⑤ HSIEの価値・態度)

解釈したラベルより、①・②にはHSIEのカリキュラム構成における情報源の特徴と三つの柱が説明され、③・④・⑤には概ね、前述の知識・理解、スキル、価値・態度の三つが大まかに説明されている。

続いて、とくに知識・理解は、次の枠内の記述(筆者翻訳文)によって詳細に説明されている。

**知識・理解**

このシラバスの内容は相互に関係する四つのストランドで組織されている。それらは鍵となる学習領域のために基礎的な知識を構成する。HSIEのストランドは他のストランドとの繋がりを考えることなしに適切な探究にいたらない。この鍵となる学習領域における学習経験は四つのストランド全てから引き締められるべきと期待されている。

**変化と連続性**

児童は人間社会・環境が変化と連続性によって影響を受けていることを学ぶ。強調点には現在を理解し未来への仮説を立てるために過去について知ることの重要性があげられている。児童はまた彼らの、オーストラリアの文化遺産の場所と位置、重要性について学習する。児童は自身の歴史的なルーツ、共通する歴史、現在の社会と文化を築き上げた人々、支配力、出来事について学ぶ。児童は過去との繋がりを認識し彼ら自身と他の人々、文化遺産が人類としてオーストラリア人として、どのような意味があるのかを理解し価値付けることを発達させる。児童はアボリジナルの人々の歴史と彼らのオーストラリアの文化遺産への貢献について学ぶ。

**文化**

文化の学習において児童は個人や集団の一員の両方の面から自身の理解を発達させる。児童は人類の類似点と相違点を確認し正しく理解する。文化を理解することは児童に公正な方法で社会的かつ適切に他者と繋がることや民主的で文化的に多様な社会において異なる人々が持つ様々な見方が存在しそれらが行動に影響を及ぼすこと的事实を認識することを手助けする。児童は文化が共有された理解によって伝えられ生まれつきの生得権、言語、宗教と信仰システム、教育、道徳的・倫理的慣習、芸術、象徴主義、習慣、しきたり、通過儀礼のような行為に基づく様々な集団の行為を学ぶ。児童はアボリジナルとトレス諸島の島民の文化とオーストラリア共通の文化を含めてオーストラリアの多様な文化とそれらの起源を理解する必要がある。児童は文化が動的で、時間とともに発展することを正しく理解する必要がある。

**環境**

環境は個人または全住民の生活に影響する全ての状況の集合体である。最終的に環境の状態は生活の質や生き残りの両方を決めてしまう。責任のある環境の管理は私たちの未来への投資である。児童は特徴、場所、位置、環境を正しく認識することやそれらの間の関係性に関する知識を発達させることを学ぶ。児童は自然的・人工的な特徴に言及した参考文献、地球儀、地図、ダイヤグラム、3D表現のような様々な位置ツールを使い、環境内の彼ら自身と他者を見つけ出し表現することを学ぶ。環境の構成要素を調査することによって児童は人間行動の影響と環境的で持続可能なライフスタイルを奨励し生活水準を守る必要性を学ぶ。児童は環境と天然資源の利用と保護のバランス取りの必要性を学ぶ。児童は環境への責任のある知識的な意識、環境の管理・改善行動への参加義務、生態系の持続可能性において共存できる個人のライフスタイルの発展の必要性を学ぶ。

**社会的なシステムと構造**

人々は様々な目的を達成するために社会的なシステム

と構造を発達させる。児童は必要と不足、社会に貢献する社会・経済的システムにおいて他の人々とのように相互に影響し合うかを学ぶ。児童は社会的なシステムと構造における役割や権利、責任の理解を発達させる。児童は社会的なシステムと構造がどのようになっているのか、調査する。とくにオーストラリアの民主的・政治的・法的なシステムに、変化する価値と慣習を合わせるために構成されている。

変化と連続性は、過去の現在と未来への関わりをみる中で、オーストラリア人、アボリジナル、文化遺産の理解や価値付けが求められている。文化は、多文化社会で移民が多い社会的背景のもとに、人類の類似点や相違点や多様性への理解や認識などが求められ、宗教、倫理、芸術、習慣などを学ぶ。環境は、持続可能性に向けて環境管理・改善の責任の自覚が求められ、地理ツールの習得も求められている。社会的なシステムと構造は、集会集団における役割・権利・責任などの理解が求められている。総じて、知識・理解では、四つのストランドからの説明となり、それが内容の要になっている。

次に、スキルも次の枠内の記述（筆者翻訳文）によって詳細に説明されている。

**スキル**

児童は情報の獲得、探究過程の利用、社会的・市民的参加のスキルを発達させる。これら相互関連するスキルの発達には、急速に変化する社会における市民として行動的で責任のある知的な役割を担うために児童に重要な素養を与える。

**情報の獲得**

- 急速に変化する社会で児童に適切に情報源を見つけさせ、繋がり、操り、選択、批判的に評価するスキルを持つ、大きな必要性がある。この鍵となる学習領域で発達させるスキルは児童に次のことができるようにさせる。
- 様々な主題を読み、閲覧し、書き、聞き、話すことができる。
- 参考文献や学校の図書館・情報テクノロジーセンターから引き出す情報スキルと、地図、地球儀そして地域社会の資源を用いながら情報を検索する。
- 観察、識別、発見、整理、表作成、表示、評価および反映によって適切な情報源を選択する。
- 情報の有用性、正確性、信頼性および妥当性を考慮する。
- 偏見、事実と意見の違い、情報の漏れを特定する。
- 様々な視点からの情報を考慮する。
- 主題に関わる文章の目的と意図された読者を批判的にみる。
- 情報源を選択する前に既存の知識や経験を確認する。
- 情報を取得するためによく使うスキルを反映し評価する。

○インターネット、電子メール、参考文献、人工物、独自の情報源、アーカイブ、コンピュータ技術、通信、人々とメディアなど、様々な情報源を使用する。

#### 探究過程の利用

探究過程は重要な社会的・環境的な問題に関連した意味のある調査に参加する児童を熱中させる。児童は問題や課題の特定から関連情報を収集し責任を持って問題を解決するために情報を整理する。この鍵となる学習領域で発達させたスキルは児童に次のことを可能にさせる。

- 調査の目的を定義し調査の質問を投げかけ調査を計画し開始する。
- 保護者、地域社会構成員、労働者、専門家、代理人のような人々。関連する場所、地方自治体、地方議会、国会議事堂、博物館、アーカイブや図書館のような場所。電話帳、地図、年鑑、情報技術、メディア、調査、インタビュー、口頭史、様々な種類の事実や文章。これらの情報源に含まれる関連情報を選択・特定し収集する。
- グラフ、地図、モデル、年表、図、チャート、行列、データベース、家系図、フローチャートなどの様々な方法で情報を分析、整理、保持する。
- 物語、写真、モデル、年表、グラフ、図表、データベース、情報レポート、家系図、地図、ホームページ、マルチメディア、ビデオ、フローチャート、デスクトップ印刷などを含む様々なテキストや技術を使って得られた情報を統合し伝達する。
- 将来の行動への学習の意味を確かめ、個々や集団で予測、評価、示唆、規定、決定または問題解決を行い、価値を判断することによって新しいまたは異なる状況や問題から得られた情報を適用する。
- 集団、クラス、学校の調和の発展に寄与し家族、学校、地域社会内の社会的・市民的责任を受け入れ履行することによって個人や集団で行動を計画し実施する。
- 遂行された活動の順序を記述し探究過程を記述し批評し知識とスキルの向上を伝え、個人や集団の参加を見直し修正し彼らの学習に反映させる。

#### 社会的・市民的な参加

社会的・市民的な参加に関連したスキルは市民が社会的責任を受け入れ果たすことを可能にする。この鍵となる学習領域で発展されたスキルは児童に次のことを可能にする。

- 他人の意見を聞き、互いのアイデアに反応し自身のアイデアを進める。
- 活動や議論に参加する。
- 個々にパートナーや集団で生産的に作業する。
- 協力し交渉する。
- 任務の委任、組織、計画、意思決定に参加する。
- 現在や関連する社会的・環境的問題についての情報を保持する。
- 学校、家族、地域社会の文脈で責任のある知的な市民として行動する。
- 操作を知らせ、奨励または開始し、問題解決する適切な形態の個人や集団行動に参加する。
- 家族、学校、地域社会の行事活動に参加する。
- 環境管理と改善活動に参加する。
- 特定の決定と行動の影響を反映する。
- 特定の役割と責任を受け入れる。
- 自身の権利と他人の権利を考慮する。
- 異なる種類のシティズンシップを認識する。

情報の獲得では、読み書き聞く話すの基本動作、情報検索のための場所や道具、探究のための情報の扱い方(選択、処理、分析、考察)、様々な情報源などが示されている。探究過程の利用では、調査の段取り、調査対象(人、場所、もの)、情報の整理・分析・伝達の方法、問題解決、集団学習、ふり返りなどが、社会的・市民的な参加では、他者とのコミュニケーション力や協働作業力、社会的役割・責任・活動、市民性などが示されている。大きくみると、スキルは、「情報の獲得」→「探究過程の利用」→「社会的・市民的な参加」の過程から考えられる。細かい点でみると、内容項目の列挙に止まり、シラバスへの組み込みに向けて体系的に整理されているとは言い難い。

最後に、価値・態度も次の枠内の記述(筆者翻訳文)によって詳細に説明されている。

#### 価値・態度

価値・態度は人々が互いや環境と相互作用する方法を左右する。このシラバスでは価値・態度がコンテンツに埋め込まれている。児童には自身の価値・態度、その他のものの特長、明確化、適用、分析、評価の機会が与えられている。これらの機会は地元、国家、世界レベルで持続可能な環境で民主的で社会的に公正な社会を推進するために活動的、積極的、知的で責任ある市民としての児童の育成に役立つ。また過去、現在、未来の人々、社会、文化、環境に対する知的で責任ある態度を育むのに役立つ。人間社会・環境 K-6で推進されている価値・態度は次のとおりである。

#### 社会的な正義

- 自身の行動に責任を持つ。
- 全ての人々の福祉、権利、尊厳に関心を示している。
- 他者の権利、財産および人身を保護するために開発された規則や法律に従う。
- 過去の不平等と不正を認識する。
- 人種差別、性差別その他の偏見を拒否する。
- 不利益を是正し差別的かつ暴力的な慣習を変えることへの責任を示す。

#### 異文化理解

- 自身や他人の文化的、言語的、精神的な遺産を特定し評価する。
- 異なる視点、生活様式、信念システム、言語を尊重する。
- 異なる文化や社会の人々と共感する。
- 文化的・宗教的集団が道徳的な問題について意見を異にすることを認識している。
- 結束する社会で文化的多様性を支援する。

#### 生態的な持続可能性

- 環境と、それと個人的な関係や未来への責任を評価する。
- 人々と環境の相互依存性を認識する。
- 生態的な持続可能性とライフスタイルへの責任を示す。
- 環境に対する責任をもつ。

**民主的な過程**

- 個人の自由と民主主義に参加する権利と責任への責任を示す。
- 法と妥当で公正な権威を尊重する。
- 異なる視点と選択肢を尊重し、紛争を解決する平和的な方法への責任を示す。
- 倫理的行動への責任と公平な意思決定への参加を示す。
- 民主的手段を用いて社会の改善のための代理人になる。
- 個人や集団構成員として社会に積極的かつ責任ある形で参加する。

**信念と道徳的規範**

- 人間の精神性とその表現の多様性を認識し価値付ける。
- 個人や団体の生活における宗教、信念、道徳的規範を認識し価値付ける。
- 社会基盤を提供し多様性をもたらした異なる精神的、宗教的な伝統を認識し価値付ける。
- 幾つかの行動が道徳的に間違いであると認識し、社会はこれに関連して法律と制裁を発展させていると認識する。
- 個人の価値系統を発展させ続け、それに応じて行動や責任を持たせる。

**生涯学習**

- 好奇心が強く、人々、社会、環境に関する学習に参加する準備ができています。知っていることを学習することに結び付けます。
- 常に変化する世界で生涯学習の重要性を認識する。

社会的な正義では、社会的な責任感、平等、差別・暴力の拒否などが示され、異文化理解では、自他の差異や多文化の尊重や共感が示され、生態的な持続可能

性では、人と環境の相互依存関係の認識や環境への責任などが示されている。また、民主的な過程では、個人の自由、民主主義、法、責任、公正などが示され、信念と道徳的規範では、精神性、宗教、信念、道徳的規範などの価値付けが示されている。とくに枠内の冒頭部「～価値と態度がコンテンツに埋め込まれている」と説明されている。このことから、価値・態度は、理念的な扱いとなり、主に知識・理解の内容に潜在的に含まれていると考えられる。よって、シラバスにおいてその体系的な説明は、意図されていない。

**III HSIE2006年版における四つの社会系基礎概念による枠組みの分析**

**1 「学習成果」項目<sup>2)</sup> (BOSTES, 2006, pp.16-21)**

「学習成果」項目は、四つのストランド、つまり社会系基礎概念の枠組みによって示されている。社会系基礎概念の基に内容が構成されていると考え、HSIE2006年版は、コンテンツ重視のカリキュラムとしてみなせる。第1表から第4表は、社会系基礎概念による学習成果の基本的な説明と下位概念による説明を合わせて示したものである。

第1表より、「変化と連続」の学習成果は、「重要な出来事と人々」と「時間と変化」の下位概念からも説

第1表 「変化と連続」における学習成果

(筆者翻訳作成)

*	基本的な説明	下位概念による説明	
	変化と連続	重要な出来事と人々	時間と変化
ES1	児童は個人的に重要な出来事、場所、人を特定しそれらを同様なものと比較する。彼らは時間、変化、場所に関連する言葉を利用する。	自身と他者の遺産を示す物語を説明したり話を聞いたりする。	同左
1	児童は重要な家族や地域の伝統や習慣について詳しく説明する。彼らは過去の出来事を順序づけ、彼らの生活、地域社会、他の地域社会の変化を説明する。	過去と現在の人々、日々の出来事、生活の中での出来事、家族や地域社会構成員そして他の地域社会の生活の重要性を伝える。	自身の生活や地域社会における変化と連続性を確かめる。
2	児童は様々な視点から地域社会の変化を探り、アボリジナルの人々や環境を含む個人や集団の変化の影響を評価する。彼らは、オーストラリアのイギリス植民地化に関連する重要な出来事を理解しアボリジナルと他の人々と大陸の変化と影響を特定する。	オーストラリアのイギリス植民地化に関連する出来事や行動を説明し、変化と結果を評価する。	地域社会と家族の生活の変化を説明しこれらが異なる個人、集団、環境に及ぼす影響を評価する。
3	児童はオーストラリアの民主主義の原則を探り時間の経過と共にその発展を説明する。彼らはオーストラリアの過去の重要な出来事を調査しオーストラリアのアイデンティティ、遺産、文化的多様性の発展の意味を説明する。彼らは様々な一次・二次の情報源から情報を採り出しその結果を様々な方法で提示する。	オーストラリアのアイデンティティと遺産を発展させるための過去の特定の人々、集団、場所、行動、出来事の意義を説明する。	オーストラリアの民主主義の原則の発展を説明する。

\*ステージ

第2表 「文化」における学習成果

(筆者翻訳作成)

*	基本的な説明	下位概念による説明	
	文化	アイデンティティ	文化的多様性
ES1	児童はアボリジナルを含む人々に共通する特徴を調べ、類似点と相違点の幾つかを説明する。彼らは直接観察、他人との会話、テキストの閲覧、閲覧、聞き取りから情報を取得する。	全ての人が持つ共通の特徴といくつかの違い。	同左
1	児童はアボリジナルの人々を含む、多くの集団の構成を地域社会で探り、特徴、慣習、実践、シンボル、宗教、言語、伝統を特定する集団を認識する。彼らは、直接的・間接的な経験によって地域の地域社会に関する情報を取得し様々な形式の電子メディアを使用して他者とのコミュニケーションをとる。	家族や他の家族の習慣、慣行、シンボル、言語、伝統を確かめる。	家族、地域社会、その他の地域社会の文化的、言語的、宗教的慣行について記述する。
2	児童は異なる文化や伝統がどのようにオーストラリアと地域社会のアイデンティティに貢献しているかを説明する。彼らは様々な地域や他の地域社会を調査し、生活様式、言語、信念体系などの類似点と相違点を調査する。	地域社会で共有された習慣、慣行、シンボル、言語、伝統がオーストラリアと地域社会のアイデンティティにどのように貢献するかを説明する。	様々な地域社会における様々な視点、生活様式、言語、信念体系について説明する。
3	児童はアボリジナルの人々を含む文化、伝統、言語がどのようにオーストラリアとコミュニティのアイデンティティに貢献しているかを説明する。彼らは文化が他の文化や環境との相互作用を通じてどのように変化するかを調べ、文化の多様性を探究する。	様々な文化的影響とオーストラリアのアイデンティティへの貢献について記述する。	他の文化や環境とのやりとりを通して文化がどのように変化するかを調べる。

\*ステージ

明されている。「重要な出来事と人々」では、主に重要な歴史的事象の把握が求められ、「時間と変化」では、時間と変化からみる歴史的事象の意味や意義の理解が求められている。基本的な説明からみると、ステージが進むに連れて、個人、家族、地域、様々な視点からみる地域社会、植民地時代、国家へと、学習対象の社会規模が大きくなり、捉える視点に変化がみられる。発達段階上、ES1・S1で自己中心的な見方が重んじられ、S2からは、国家通史の性格がみられる。また評価や情報探索などのスキルの記述も僅かにみられる。

第2表より、「文化」の学習成果は、「アイデンティティ」と「文化的多様性」の下位概念からも説明されている。「アイデンティティ」では、主に家族、コミュニティ、国家が持つアイデンティティに関する事象の把握が求められ、「文化的多様性」では、それらの意味の理解が求められている。基本的な説明からみると、個人、地域社会、国家と学習対象の社会規模が大きくなり、S2では類似点と相違点、S3では文化や環境との相互作用、といった考え方の高度化がみられる。電子メディア、情報探索、調査などのスキルの記述も僅かにみられる。

第3表より、「環境」の学習成果は、「場所と位置の

パターン」と「場所の関係性」の下位概念からも説明されている。「場所と位置のパターン」では、主に地理的事象の把握が求められ、「場所の関係性」では、人々と環境の関係を軸にした地理的事象の意味の理解が求められている。基本的な説明からみると、身近な地域、地方、オーストラリア、世界といった学習対象を広げながら、人々と環境との関係性・相互作用などを軸に学習していく。とくに絵図、地図、モデルに関するスキルの説明がやや体系的にみられ、地理的な知識・理解の内容に不可欠なスキルとして重視されている。

第4表より、「社会的なシステムと構造」の学習成果は、「資源システム」と「役割・権利・責任」の下位概念からも説明されている。「資源システム」では、主に自身と社会の関係から社会的事象の意味の理解が求められ、「役割・権利・責任」では、価値態度・行動に関する資質・能力などが求められている。基本的な説明からみると、ES1・S1ではクラス・家族・学校・地域社会などを対象に役割・責任・規則の理解が求められ、S2では学校や地方自治体、S3ではオーストラリアと世界を対象に権利や意思決定、評価や参加、社会貢献などが求められている。情報データ、メディア、評価、意思決定。計画・策定などのスキルの記述も所々



第3表 「環境」における学習成果

(筆者翻訳作成)

*	基本的な説明	下位概念による学習成果	
	環境	場所と位置のパターン	場所の関係性
E S 1	児童は身近・自然的・人工的な環境とそれに対する気遣い方、そこにある活動を識別、調査する。児童は、文章を書くこと、絵を描くことモデルを作ることを通して口頭で知識と理解を伝達する。	自然環境と作られた環境に関する情報を収集しこれらの環境と関わり、気遣う幾つかの方法を伝える。	同左
1	児童は自然、文化遺産、地方のエリアを形作る特徴を比較しそれらの特徴と人々の相互作用を調査する。児童はアボリジナルの人々と鳥の間の関係性を含む人々と環境の関係性を調査する。児童は関係のある用語における位置の言語を使い、身近な地域の絵地図とモデルを作って使う。	地方の自然と作られた特徴やこれらの特徴と相互に作用する人々の方法を比較し対照する。	環境と人々との関係を理解することを示す。
2	児童は身近な地域やオーストラリアの他の部分における自然的・人工的、作られた特徴に気づき、見つけ出し説明する。またそれらの重要性和管理について説明する。児童は32方位と地図上の他の重要な特徴を探し出し様々な情報源から情報を見つけ評価するための技能を発達させる。	地方やオーストラリアの他の地方の場所について記述し、その重要性を説明する。	人々と環境とのやり取りを記述し環境とのやり取りの責任ある方法を確かめる。
3	児童はオーストラリアと世界の環境を分析し環境の問題と課題に気づく。児童は個人、集団のそれらの課題の解決に貢献できる方法を調査する。児童は人々と環境の相互作用を調査し生態系が持続可能な発展を認識する。児童は様々な信条や慣習を認識しそれらが環境との相互作用にどのように影響するか説明する。児童は地図を大まかに書き、ラベル付けし妥当な手法と専門用語から適切に応用する。	オーストラリアと地球環境との相互関係の理解と、どのように個人や集団が生態学的に責任を持って行動するのかを理解する。	様々な信念や慣行が人々と環境の相互作用に変化をもたらし、評価する方法にどのように影響するかについて説明する。

\*ステージ

第4表 「社会的なシステムと構造」における学習成果

(筆者翻訳作成)

*	基本的な説明	下位概念による学習成果	
	社会的なシステムと構造	資源システム	役割・権利・責任
E S 1	児童は人々のニーズを確かめ、これらが個別にかつ協力的にどのように満たされるかを説明する。彼らは教室や家庭で役割、責任、規則を探る。	自身と他者のニーズが個別にかつ協力的に満たされる方法を確認する。	同左
1	児童は家族、学校、地域社会内の役割、責任、ルールを確かめ、その相互関係を探究する。彼らは人々とテクノロジーがニーズや望みを満たすためにどのように商品やサービスの生産に繋がっているのかを記述する。	システムにおける人々とテクノロジーがニーズや要望を満たす商品やサービスの提供にどのようにリンクするかを説明する。	家族、学校、地域社会における役割と責任を明確にし、他者とのやり取りの方法を決定する。
2	児童は学校や地方自治体における役割、責任、権利、意思決定過程について調査する。彼らは学校や地域社会のプログラムの企画、実施、評価に参加し学校や地域社会の生活の質にどのように貢献するかを認識する。彼らはテクノロジーがどのように商品やサービス、ライフスタイル、環境、金融取引の提供に影響を与えるかを調べる。児童は情報やデータを伝達するために様々なテキストやメディアを使う。	人々とテクノロジーがニーズを満たすために相互作用する方法とその理由を記述しこれらの相互作用が人々と環境に及ぼす影響を説明する。	学校や地域社会における権利、責任、意思決定過程を調査し参加が学校や地域社会の生活の質にどのように貢献できるかを示す。
3	児童は世界とのオーストラリアの社会的・経済的な繋がり、オーストラリアと地球市民の権利と責任を認識する。彼らは州や連邦レベルでの意思決定過程を調査し政府の構造、役割、責任について説明する。彼らは労働慣行の変化、生産者と財とサービスの利用者の権利と責任を調べる。児童は参加型民主主義の知識を応用して計画を策定し学校、地方、国家、地球規模の問題に対する公平性や社会正義を示すことのできる解決策を作り出す。	オーストラリアの人々、システム、地域社会がどのように地球的に相互関連し地球的な責任を認識するかを記述する。	州政府および連邦政府の構造、役割、責任および意思決定過程を説明しオーストラリア人が公正および社会的に公正な原則を評価する理由を説明する。

\*ステージ

にみられる。

以上の第1表から第4表からまとめてみると、学習が進むに連れ、学習対象の社会規模が大きくなり、とくにS3では、オーストラリアと世界となる。四つの社会系基礎概念に伴う下位概念には、事象の把握やその意味の理解、価値態度・行動に関わる事象や過程の理解などの特色がみられる。これらの知識・理解の内容に対して、情報・探究・社会性などのスキルに関わる記述は、所々にみられる。また、前述の説明にもあったように、価値・態度の意味は、必然的に、地域社会、環境変化、信念、様々な文化、民主主義などの知識・理解の内容に含まれ、そして、学習活動の流れの中でも潜在的に養われるものとして考えられる。

## 2 「学習内容のスコープとシーケンス」項目<sup>3)</sup> (BOSTES, 2006, pp.67-75)

第5表から第8表は、ストランドである四つの社会系基礎概念のスコープとシーケンスの対応を示す。つまり、「学習成果」項目と同様に社会系基礎概念の枠組みによって示されている。各表のスコープには、社会系基礎概念を基に、二つの下位概念、さらに四つから五つの最下位概念が階層化されてみられる。つまり、社会系基礎概念、下位概念、最下位概念、そして最下位概念に従属する具体的な学習内容となる社会的事象の意味・意義、などのカリキュラム内容における階層が読み取れる。

第5表より、「変化と連続」をみると、まず、下位概念「重要な出来事と人々」には、「起源」・「重要な人々

第5表 「変化と連続」のスコープとシーケンス

(筆者翻訳作成)

*	重要な出来事と人々			時間と変化	
	起源	重要な人々と偉業	重要な場所と出来事	変化	現在の出来事と問題
E S 1	○生涯イベント・ステージ ○国の始まりを含む、家族の起源	○家族、過去と現在における人々 ○過去の難局に合った人々	○目の前の環境における場所	○生活や、過去と現在の変化 ○隣近所の人々と場所の変化	○家族、地方、国家、地球上の出来事 ○オーストラリア創設をふり返るアボリジナルの夢物語
1	○生徒、家族、地域社会の起こりの流れ ○生徒を祝う重要な日と休日の起こり	○生活において重要な人々 ○過去と現在のテクノロジー	○自他のコミュニティで児童が祝う日、休暇、イベント ○歴史的な出来事、地方の場所。例えばアボリジナルの遺跡や記念遺跡	○変化する需要によって引き起こされる変化、過去と現在 ○生涯におけるステージ	学校、地方、国家、地球上の出来事への気付き
2	○地域社会の遺産についての異なる見方 ○オーストラリアの遺産と他の国々の人々や集団による貢献	○植民地化と当時の世界探検についてのジェームス・クックの旅記 ○起源となるアボリジナルの国と境界線の知識を含む、地域社会の遺跡に関係する場所と出来事への人々による貢献 ○イギリス植民地の成立－生活の観点、Arthur Phillip、偉業、出来事と場所を含む重要な人々	○イギリス植民地の確立へのアボリジナルの反乱－Pemulwuy、偉業、出来事と場所を含む重要な人々 ○イギリス植民地の成果となるシドニー領域における人々と場所の変化	○地方の地域社会と他の地域社会における変化の原因と結果 ○地方の地域社会における連続と変化の役割、伝統、実行、慣習	○家族、学校、地方、国家、地球上における出来事と問題
3	○Anzac Day、オーストラリアDay、NAIDOC週を含む、オリジナルな祝日、週、出来事と場所	○過去と現在のオーストラリアによる世界の行い ○共和運動の1967年度国民投票 Sir Henry Parkesを含む、オーストラリアの民主主義の発展における鍵となる姿、出来事や問題 ○世界的に広がる民主主義の発展に影響を及ぼす重要となる姿や出来事	○金の発見、植民地の探査と拡大を含む、オーストラリアのアイデンティティを分かち合う重要な出来事	○盗まれた世代の衝撃を含む、オーストラリア人の人権問題 ○イギリス植民地前のアボリジナルの民主主義の行い	○家族、学校、地方、国家、地球上の出来事、問題、課題そして流行

\*ステージ

第6表 「文化」のスコープとシークエンス

(筆者翻訳作成)

*	アイデンティティ			文化的多様性	
	文化的背景	集団とコミュニティの多様性	文化的共通性	言語とコミュニケーション	信仰系統
ES1	○生徒の性格、願望、能力 ○家族言語	○自身のクラスと家族集団 ○生徒が祝う特別なイベント	○簡易認識できるオーストラリア人と学校のシンボル ○個々人が属する集団	○隣近所で話される言語の違いを認識できる ○コミュニケーションとなるからだ言語の利用	○クラスの構成員と家族によって分かち合うイベント
1	○家族の文化的性格	○家族を含む、生徒が属する集団 ○集団に属する重要な人々	○例えば、記章、旗などの異集団で用いられるシンボル ○例えば、お祝いなどで家族が文化を表現する共通の、異なる方法。	○他の集団や家族によって話される言語 ○コミュニケーションの異なる方法	○お祝いを含む、生徒に重要な習慣や行い ○自身と他の地域社会の集団と家族の信仰系統 ○夢物語から始まる児童にとっての伝統的・宗教的な流れの重要性
2	○地方の地域社会における人々の起源と背景 ○地方の起源的な慣習	○地域社会の、あるいはその間の集団の多様性	○例えば、紋章など、地方の地域社会で用いられる簡単に認識できるシンボル	○地方の地域社会において話される起源となる言語を含む、地域社会で話される言語	○土地に根付く特別なアボリジナルの人々の関係を含む、地方の地域社会の宗教的、精神的に重要な場所 ○重要な人々や主な世界宗教の本質の伝統的・宗教的な流れ ○主な慣習と宗教的なお祝いと他の地域社会集団
3	例えば、権力者の圧力、人気の文化など、アイデンティティに影響する文化的な影響や他の要因	○オーストラリアと他の国々の文化的多様性	○例えば頌歌、旗、紋章などの国家的シンボル ○民謡、歌そして色によって表現される国家的文化 ○例えばオペラハウス、ウルル、スノーマウンテン計画の重要な用地 ○現在の出来事の影響	○起源となる場所の名前や他の言葉や表現 ○文化的影響を助長する日常的な言葉 ○地球上の伝達の多様性	○お祝いを含む、伝統、信仰系統、オーストラリア人の振る舞い ○アジア太平洋域における国家間比較による伝統、信仰系統とオーストラリア人の振る舞い

\*ステージ

と偉業」・「重要な場所と出来事」が主に従属すると考えられ、その三つの内容には、歴史上の起こり・重要な人物・出来事・場所に関する歴史的な事象そのものが主な対象になっている。次に、下位概念「時間と変化」には、「変化」・「現在の出来事と問題」が主に従属すると考えられ、その二つの内容には、歴史上における歴史的な事象の関係性や因果関係などの意味や意義が主な対象になっている。

第6表より、「文化」をみると、まず、下位概念「アイデンティティ」には、「文化的背景」・「集団とコミュニティの多様性」・「文化的共通性」が従属すると考えられ、その三つの内容には、様々な社会規模の集団の文化的な特徴に関する事象そのものが主な対象になっている。次に、下位概念「文化的多様性」には、「言語とコミュニケーション」・「信仰系統」が従属すると考

えられ、その二つの内容には、文化を定める関係性や因果関係などの意味や意義が主な対象になっている。

第7表より、「環境」をみると、まず、下位概念「場所と位置のパターン」には、「位置、場所、方位」・「場所と特徴」が従属すると考えられ、その二つの内容には、主に様々なスケールにおける地理的事象そのものが主な対象になっている。次に、下位概念「場所の関係性」には、「人々と環境の関係」・「環境への気遣い」が従属すると考えられ、その二つの内容には、人々と関係、環境との関わりなどから地理的事象の関係性や因果関係などの意味や意義が主な対象になっている。

第8表より、「社会的なシステムと構造」をみると、まず、下位概念「資源システム」には、「社会的な構造」・「相互依存」・「経済システム」が従属すると考えられ、その三つの内容には、様々な社会集団やものとそれら

第7表 「環境」のスコープとシークエンス

(筆者翻訳作成)

*	場所と位置のパターン		場所の関係性	
	位置、場所、方位	場所と特徴	人々と環境の関係	環境への気遣い
ES1	○目の前の環境における特徴と場所	○目の前の環境と訪問したことのあるエリアの自然的・人工的な特徴	○目の前の環境と訪問したことのあるエリアとの生徒の経験と相互作用	○清潔で安全な場所と環境 ○目の前にある環境での自然物への気遣い
1	○地球を表現するための地球儀 ○例えば、右左、山、都市などの位置、場所、方向のための毎日の言葉	○地方における場所の利用 ○目の前の環境やその他における自然、人工物そして遺産の特徴	○必要を満たすための環境への適合 ○必要や要望に見合う結果としての目の前の環境への変化 ○アボリジナルの地との関係や土地を気遣う方法	○特徴、用地、場所そして環境に対する個人的、共同的な価値や責任 ○無駄をなくすことを含む、資源への気遣い
2	○NSWの主な都市、河川、山々 ○オーストラリアの首都 ○例えば、北南東西、赤道、北回帰線、南回帰線、北極、南極	○地方エリア、NSWやオーストラリアの重要な自然的、遺産や人工的な特徴と、それらの利用 ○地方とその他のオーストラリアの地域社会	○環境の変化 ○アボリジナルの人々を含む、場所や特徴に関わる集団	○例えば、アボリジナルの土地管理の行いなど、人間が巻き込む環境利用のパターン ○環境における人間と自然の効果
3	○大陸やいくつかの首都を含む、オーストラリアや世界における自然的、政治的、文化的な領域そして主な参考となる点 ○例えば、経線、緯線などの地理用語	オーストラリアと世界における地域社会、領域そして環境	○特徴、用地、場所と環境の管理と気遣い	○生態的な環境の持続可能な発展 ○環境のメンテナンスと改良の異なる見方 ○事例学習を通して、世界における自然的・人工的な遺産の用地 ○アボリジナルの夢物語での自然現象と環境の説明

\*ステージ

の関係性などの社会的事象の意味が主な対象になっている。次に、下位概念「役割・権利・責任」には、「役割・権利・責任」・「意思決定や民主主義過程」が従属すると考えられ、その二つの内容には、社会機能や民主主義などから社会的事象の意味や価値などの意義が主な対象になっている。

総じて、スコープからみると、HSIE2006年版の内容の特徴は、四つのレベルの階層からみられる。最上位には、抽象度の高い四つの社会系基礎概念（Ⅰレベル）が位置付く。そして、その基には、抽象度のやや高い下位概念が備わる（Ⅱレベル）。下位概念は、主に社会系事象の把握から意味の理解を担うが、社会的なシステムと構造の下位概念では、社会系事象の意味の理解から価値・態度を含む意義の理解を担う。さらに、下位概念の基には、抽象度がやや低い最下位概念が備わる（Ⅲレベル）。最後に、最下位概念の基には、学習内容として扱われる具体的な社会的事象の意味・意義が配置される（Ⅳレベル）。このことは、カ

リキュラム内容構成における社会系基礎概念のトップダウン的な特徴とみられる。網羅的な学習ではなく、学問に依拠する社会系基礎概念によるストランドという軸、あるいは枠組みによる系統的な学習が意図されている。シークエンスには、児童の発達段階や学習の積み上げの系統が考慮される中で、四つのレベルの階層によって学習内容が配置されている。つまり、HSIE2006年版は、四つの社会系基礎概念の四つの階層から内容が構成され、コンテンツ重視のカリキュラムとしてみられる。

#### Ⅳ むすび—新しい小学校社会科への示唆

HSIE2006年版の分析・考察に関する主な成果は、次の四つがあげられる。

- (1)「総則」項目では、理念、内容、系統、方法、価値・態度などから端的に示され、内容の四つのストランドは、我が国の新しい小学校社会科の内容の

第8表 「社会的なシステムと構造」のスコープとシークエンス

(筆者翻訳作成)

*	資源システム			役割・権利・責任	
	社会的な構造	相互依存	経済システム	役割・権利・責任	意思決定や民主主義的過程
ES1	○児童の家族の構成	○個人やクラスの必要性和要望 ○学校における人々の役割	○児童が利用する生産物とその場所 ○お金の利用	○クラスや家における役割、権利、責任	○クラスの役割とルーチン
1	○例えば、広がり、血統、片親家族などの家族構成のタイプ ○家族の機能や家族の行い	○テクノロジー、労働者、利用者、環境の間の相互関連 ○個人の必要性和要望	○両替の仕組み ○商品とサービスを生むシステム ○商品とサービスを生むために利用するテクノロジー ○家族に用いられる資源とその場所	○家族や家における役割、権利、責任 ○サービスや地域社会における人々の役割や責任、払われるか払われないか	○家族、学校、そして地域社会の役割と目的
2	○地域社会の組織と集団によって作られるサービスと貢献	○地域社会の組織とシステムにおけるテクノロジーの変化、ライフスタイルと環境の効果	○地域社会における商品、サービスそして設備 ○地域社会における労働者とボランティア組織に支払うか支払わないかの貢献 ○通貨の両替におけるテクノロジーの利用	○消費者と生産者の権利と責任 ○地方政府における役割と責任 ○クラスと学校の中の争いの解決	○オーストラリアと地球のシティズンシップの権利と責任 ○州と連邦政府の役割と責任 ○地球的な商品とサービスの利用者と生産者の権利と責任 ○例えば、共同、同盟、ユニオンなど、雇用者と労働者をサポートする組織
3	○州と連邦政府の構造とそれらの間の関係性	○例えば、伝達、貿易、国際的な人権の同意と組織化など、地球的な相互連携と相互依存	○通貨の両替を含む組織 ○主なオーストラリアの輸出入 ○例えば、テクノロジーのインパクトなど、オーストラリアにおける労働や産業の変化	○クラスと学校 ○意思決定	○州と連邦政府における作られ、変えられた法による過程 ○選挙の過程 ○地域社会、学校、クラスの意思決定そして民主主義過程 ○オーストラリアの公平・社会的公正の発展のための集団、活動、政治、法による貢献

\* ステージ

枠組みに相当する。「ねらい」項目は価値・態度に関して、「目的」項目は知識・理解(四つのストランド)、スキル(情報の獲得、探究過程、社会的・市民的参加)、価値・態度(社会的・市民性)の三部から示されている。

- (2) 「人間社会・環境の学習の概観」項目では、知識・理解、スキル、価値・態度の三つの相互関連の図式が示され、その中でアボリジナル、多文化性、職業などのオーストラリア連邦にとって重要な観点位置付く。それらは、情報源、三つの柱、知識・理解、スキル、価値・態度から端的に示されている。さらに知識・理解は、変化と連続、文化、環境、社会的なシステムと構造の項目から、スキルは、情報の獲得、探究過程の利用、社会的・

市民的な参加の項目から、価値・態度は、社会的な正義、異文化理解、生態的な持続可能性、民主的な過程、信念と道徳的規範などの項目から、より詳細に示されている。

- (3) 「学習成果」項目では、とくに知識・理解に関する四つのストランドから示されている。四つのストランドは、社会系基礎概念であり、その基本的な説明の後に、各々に二つの下位概念が示され、内容が説明されている。スキルの記述は、所々にみられるが、価値・態度の記述は、知識・理解に関する内容や、探究過程や社会的・市民的な参加などのスキルに含まれているため、顕在的には読み取れない。
- (4) 「学習内容のスコープとシークエンス」項目では、

スコープにおいて、Ⅰ：抽象度の高い社会系基礎概念、Ⅱ：抽象度のやや高い社会系基礎概念に從属する下位概念、Ⅲ：抽象度のやや低い社会系基礎概念の下位概念に從属する最下位概念、さらにⅣ：社会系基礎概念の最下位概念に從属する学習内容として実際に扱われる社会的事象の意味・意義の四つのレベルの階層から内容が構成されていると考えられる。この特徴はカリキュラム全体の中心となる骨組みとなり、HSIE2006年版は、コンテンツ重視のカリキュラムとしてみられる。

以上より、我が国の新しい小学校社会科の内容の枠組みへの示唆について考えると、次の二つがあげられる。

- (1) 社会系基礎概念による内容の階層の議論と、学習におけるその積み上げ方の議論を掘り下げる必要がある。例えば、どのような下位概念、最下位概念、具体的な社会的事象の意味・意義が学習内容として扱われるか、その妥当性や論理性、明瞭性などについて議論する必要がある。ただし、この議論の掘り下げには、理論と実践の両側面に目を向けなければならない。
- (2) HSIE2006年版の内容では、四つの社会系基礎概念間の関わりが示されていない。この点は、我が国の新しい小学校社会科の内容においても同様に考えられる。一方で、我が国の新しい小学校社会科の方法には、コンピテンシー重視の中で社会的見方・考え方を働かせることが示され、見方・考え方の中に三分野の主な社会系基礎概念が含まれている。つまり原理的には、一つの分野の内容を複数の社会系基礎概念からに見て考えられることになる。しかし、一つの学問分野の枠組みによって規定された内容では概ね、その学問分野に依拠する基礎概念を主にして方法に用いて見て考えることが想定できる。具体的にどのようにして、複数の社会系基礎概念を方法に用いて見て考えさせるのか、授業マネジメントも含めて、実践的な課題が残る。この点を理論的に考えると、学年間、単元間、授業間などの様々なレベルの学習の連なりや積み重ねにおいて、複数の社会系基礎概念の相互補完的な在り方の議論を深めていく必要がある。

## 文献

- 文部科学省 (2017)：小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説社会編平成29年7月。  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387017\\_3\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387017_3_1.pdf) (2018年9月16日確認)
- 吉田剛・管野友佳 (2016)：オーストラリアにおける「ニューサウスウェールズ州」および「連邦」地理カリキュラムの地理的概念の機能に関する比較研究－コンピテンシー・ベースによる地理カリキュラムからの示唆－。社会系教科教育学研究 (社会系教科教育学会)，第28号，pp.101-110。
- BOSTES (2006)：HSIE K-6 Syllabus。  
<http://k6.boardofstudies.nsw.edu.au/wps/portal/go/hsie> (2016年3月14日確認)

## 注

- 1) 「学習の内容的側面」に機能する社会系基礎概念とは、カリキュラム構成における学習テーマ・単元の設定の際に構造的・明示的に関係付けられ、様々な社会的事象の意味・意義を從属させる中心的な役割を担うものとされる。一方で、「学習の方法的側面」に機能する社会系基礎概念とは、学習内容となる様々な社会的事象の意味・意義に対する学習・思考の際に、観点となって活用される役割を担うものとされる。
- 2) 「学習成果と指針」項目 (BOSTES, 2006, pp.22-38) の分析・考察は、「学習成果」項目の基で詳細に項目立てられているため、紙面の関係上、省略した。
- 3) 「内容の概観」項目 (BOSTES, 2006, pp.41-66) の分析・考察は、詳細に項目立てられ、紙面の関係上、その概観を示す「学習内容の範囲とシーケンス」項目の分析・考察を頼りにし、省略した。

## 付記

本研究の一部は、JSPS 科研費 JP26381171の助成を受けたものである。また本稿は、管野友佳による2015年度末に宮城教育大学に提出した卒業研究の一部を基に、大幅に再考して分析・考察を加えたものである。

(平成30年9月28日受理)